

# 英国の選択 世界に波紋

英国が国民投票で欧州連合(EU)からの離脱を選択した。第二次世界大戦後、統合の道を歩み続けてきた欧州は分裂してしまうのか。欧州問題の専門家である▽羽場久美子・青山学院大教授▽渡辺啓貴・東京外国語大大学院教授▽細谷雄一・慶応大教授―の3氏に、離脱決定の背景や今後の欧州の動き、日本への影響などを語ってもらった。

【司会・小倉孝保外信部長、写真・北山夏帆】

## EU 離脱 識者座談会

### 感情派が勝った 渡辺氏

#### 国民投票の結果

国民投票の結果をどう感じましたか。  
渡辺氏 残留派が勝つと思っていました。(残留した方が経済などの面で得策だという)理性派と、(離脱して英国の主権を回復するという)感情派との戦いで、感情派が勝ったという見方ができる。

私は従来、欧州統合は「国境を越えたリストラ」だと表現してきました。一国だけでは社会や経済の苦境から脱出できないので、国同士で互いに協力しながら行動していく。当然、その中で、組織の再編成、制度や法律の改正も必要になってくる。従って経済の調子がいいときには問題はないが、不調のときにはその責任が「統合」に押しつけられる。苦しい状況にある人たちが、EUをスケイプゴートにしてしまった形だ。また、EU制度そのものへの懐疑心が定着していないことも示された。

目は、英国の大団意識やナショナルリズムが強く反映された結果だということ。現代は国際的な権力構造が転換しつつある時代だ。英国を含む大団の政治や経済が頭打ちになる状況の中で、英国人としてのプライドが超国家組織であるEUへの反発と結びついている。

二つ目はネーミングの問題だ。離脱派の「BREXIT」(英国A B R I T A I N V と離脱A E X I T V の造語)は魅力的に響いたが、「残留」や「現状維持」は、有権者には地味に映った。英国の方に問題があるにもかかわらず、いかにもEUに問題があって、離脱によって、過去の大英帝国の夢が再現できるという大衆が錯覚してしまった。実際には幻想であるのに、「ブリン・ファースト(英国が第一)」という言葉も反EUの共感を醸成させるのに一役買ったと思う。

三つ目は、中産階級が起した反乱だということ。中産階級は政治の中核だ。経済的に疲弊し、不満を持つ中産階級を離脱派のポピュリズム



羽場久美子

青山学院大教授

はは・くみこ 専門は国際政治経済学。ロンドン大、米ハーバード大の客員研究員として欧州の地域統合などを研究。北米の世界国際関係学会副会長。著書に「ヨーロッパの分断と統合」(中央公論新社)など。



渡辺啓貴

東京外大大学院教授

わたなべ・ひろたか 専門はフランスの政治外交論。東京外国国際関係研究所長。2008年から2年間、在仏日本大使館公使。著書に「現代フランス―栄光の時代の終焉、欧州への活路」(岩波現代全書)など。



細谷雄一

慶応大教授

ほそや・ゆういち 英国外交史専攻。英ハーミントン大学院で修士号取得。米プリンストン大客員研究員などを経て現職。著書に「国際秩序―18世紀ヨーロッパから21世紀アジアへ」(中公新書)など。

## 中国接近に懸 周辺国との関係

この結果は英国や欧州にどんな影響を与えるでしょうか。  
渡辺氏 ポピュリズムや反EUの勢いが欧州で盛り上がるだろう。ただ、既に英国通貨ポンドや株価は暴落しており、経済的に非常に厳しい状況になる。キャメロン氏が辞任する10月以降、「英国の離脱決定はうまくいっていない」となる。欧州の極右勢力がポピュリズムの勢いに乗って支持を拡大するのは難しくなる。

一方、英国が孤立化の道を歩んだとして、それが独仏にとって良いわけではない。短期的には、独仏がここで英国を見切る態度を取ることはない。今後、英国と独仏などの交渉がどう進むかが大きな焦点だ。

羽場氏 EUのレンジャードール(存在意義)は、米国に並ぶ、または米国を上回る経済圏を形成して、「規範の帝国」という世界の頂点の地位から落ちないことだ。加盟国をEUの枠内にはめようとする動きは強化されるだろう。

その場合、最も大事なのは、中間層に対するポピュリズム勢力の影響力を弱め、政權側が中間層をいかに取り込めるかだ。そのためには失業率への雇用創出や社会保障を厚くするなどの対策が必要だ。しかし、EUも英国もその予算が足りないし、「強い英国」「強い欧州」という言葉

## 大衆迎

### 欧州の今後

地域によっても結果が分かれましたね。

細谷氏 離脱派は民意に沿わない政治はおかしいから国民投票をせよと言った。だが、スコットランドは住民投票をすれば今は100%離脱する。北アイルランドとアイルランドの間はEUとの関係が容易だ。しかし、離脱で国境管理が強化されると、北アイルランド紛争が再燃する可能性もある。連合王国の崩壊が始まろうとしている。

英国が世界に影響力を持つのは、連合王国が一体となることが前提になっている。だが、英米関係で言えば、重要な海軍基地の多くがスコッ